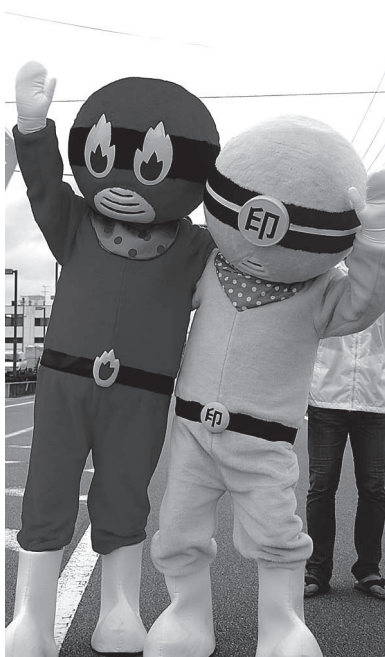




▲ほぼ頭上で上がる2尺玉の迫力に圧倒される有料観覧席の観客たち

▼イベントにはなくてはならない存在となった、すっかりおなじみ?!市川三郷レンジャー!今回は山梨大学工学部大山ゼミの生徒さんたちの協力を得て、PR活動に奔走。レンジャーの周りには常に人だかりができるほど人気者でした



▶メッセージ花火では昨年に引き続き、今年も2組のプロポーズが成功しました。その内の1組のキセキはこのふたり。角倉裕樹さん(左・増穂町)と名取佳子さん(南アルプス市)。「以前からプロポーズはこの花火大会でと考えていました。彼女にバレず驚かせようと、メッセージはプログラムにも掲載しませんでした」と話す角倉さんに対し、名取さんは「プロポーズされたことに驚くと同時に、夢のようにうれしかったです。昨年プロポーズが成功したカップルがいたことは知っていましたが、まさか自分が同じ大会でプロポーズされるとは思いませんでした。会場の皆さんからも祝福していただき、とても嬉しかったです。」と話してくれました。



▲皆さん覚えているでしょうか?昨年、この大会のメッセージ花火でプロポーズをした菊込淳さんと藤澤さやかさん。なんと記念日となったこの日に、市川三郷町役場に婚姻届を提出しました。「なにより大好きな市川三郷町に婚姻届を出すことができうれしいです。今日は婚姻の記念に、この町が誇るはんこを作りたいと思います」末永く幸せに!



▲今年も作りました。天気の見張り番、2代目てるてる坊主のテル男くんとテル美ちゃん。多少の雨には降られたものの、このくらいはご愛嬌。しっかりと空に睨みを効かせてくれました



恒例となった花火師と観客とのエール交換。「素敵な花火をありがとう」「今年の花火もすばらしかったよ」「来年もきっと来ます」そんなメッセージが込められているのか、観客の多くがいつまでも手を振っていました。そんな心の交流ができるのも、この大会ならではです。

来年も市川の地で会いやしよ
愛



We love 花火

第21回 神明の花火大会
8月7日花火の日
フォトレポート

大会関係者は連日、炎天下のもと準備を進めてきた。花火師たちは地元の大会であるがゆえに最高の花火を魅せようと、余念のない研究を重ねてきた。地域に独特の高揚感が漂う中、ついにこの日を迎えた。山々を際立たせるために赤く染まった空が、今度は花火を際立たせるため漆黒の色へと変わる。そんな中いよいよ始まった花火大会。会場を埋めつくした観客の、心も体も震わせた約2万発の花火。そんな1日の町の姿をお届けする。



①最後の配線をする花火師 ②筒に花火をセット ③花火大会前のライブイベント。バンド「Spiral Roots」はアコースティックセットで心地よい音楽を提供した ④大会3時間前のメイン会場周辺の様子 ⑤これから始まる花火への期待で足取りも軽やかだ ⑥当日の朝からは職員総出で指定席の準備 (写真下)市川大門駅の混雑の様子



※廃棄物の処理及び清掃に関する法律（抜粋）

第5条（清潔の保持）土地又は建物の占有者は、その占有し、又は管理する土地又は建物の清潔を保つように努めなければならない。

第16条（投棄禁止）「何人も、みだりに廃棄物を捨ててはならない。」

第16条に違反をした場合は、同法第25条第9項に基づき、5年以下の懲役若しくは1,000万円以下の罰金、又はこの併科に処されます。

現在、町では不法投棄の多い道路や集積所に警告看板を設置したり、パトロールを強化するなどして防止対策に取り組んでいます。

※不法投棄を見かけたら町生活環境課環境衛生係 ☎055（272）6092
鯉沢警察署 ☎0556（22）0110

当然のことながら、不法投棄は犯罪行為であり、捨てる人のマナーの悪さが一番の原因です。しかし駐車場や空き地にゴミを散乱させている状態は、「ゴミがゴミを呼ぶ」かのように、不法投棄の温床となつてしまい、さらには生活環境の悪化にもつながります。

不法投棄は、捨てている現場を押さえるのが困難な上、そのまま放置すると、さらなる不法投棄

片付けは管理者

不法投棄は、捨てている現場を押さえるのが困難な上、そのまま放置すると、さらなる不法投棄

地域での監視を

不法投棄を見つけて片付けるだけでは、根本的な解決にはなりません。捨てられないような防止対策を講じる必要があります。

でも、監視されるかもしれないと思われる場所では、不法投棄はされないようです。不法投棄を防止するためには、地域の方々の監視の目が有効な手段のひとつなのです。皆さんの地域に不法投棄されそうな場所はないか、もしあるとすればどういう防止対策ができるのか、これらの対策をみんな考えていき、不法投棄を撲滅しましょう。

ゴミがゴミを呼ぶ

道路・公園・河川・空き地などにみだりにゴミを捨てることは、許されない犯罪行為です。不法投棄されたゴミは、地域の環境を悪化させ、火災等の災害を起こす恐れがあります。

不法投棄は許さない



We love花火

貴重な体験をする機会を頂きありがとうございました。職員の皆様が一丸となって花火大会を運営する姿に心打たれました。今回の体験を励みに今後も頑張っていきたいです。最後に、僕のプロポーズは神明の花火大会で行いたいと思います！

大友竜朗

市川三郷レンジャーと街を歩いている最中に、たくさん子どもたちと触れ合えたことで、元気をもらうことができました。またたくさんの方々に「頑張ってるね。」という言葉をかけて頂くことで、町の人々の温かい心に直に触れることができました。「神明の花火」が人気があるのは、その花火大会に町民の心の温かさが集約されているからだなと思いました。

橋本雅和

普通の大学生活を送っている経験できないことを体験させて頂きました。市川三郷レンジャーと絡めたことで、見物客の方々が笑顔になるのを見て、「暑いけど、やってよかったな。おもしろいな。」と思いました。この花火大会では、次々と大きな花火が打ち上がり、非常に感動しました。今後も花火大会が継続されることを期待しています。

鈴木慎二

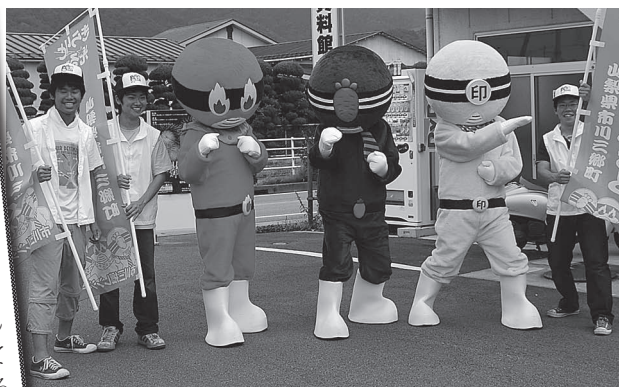
▲代表して3人の学生が今回の感想を送ってくれました

あの感動をもう一度

町ホームページでは、花火の撮影を毎年協力していただいている「市川カメクラブ」による『神明の花火』写真を多数公開しています。熟練の技による色鮮やかな花火の写真。ぜひご覧下さい。

今年の公開は9月11日から（予定）

市川三郷町 検索



▲山梨大学の学生6人が協力してくれた市川三郷レンジャーPR大作戦。あれ？あと3人どこ行った？



▲山梨が大好きだと語る栗田翔さん。大学では環境問題について学んでいます

山梨が大好きな私はこの花火大会を作り上げたく、神奈川からやって来ました。とても温かな市川三郷町役場の方々と、大会当日までに一生懸命準備に携われたことは素晴らしい思い出であるとともに、市川三郷町を深く知る機会にもなりました。大会当日は、打ち上がる花火の一発一発が、私とこの花火大会の関係者が積み上げてきた結晶のように感じ、またかつてないその迫力に感動しました。

やっぱり山梨は大好きです！でも、市川三郷町はもっと大好きです！来年もそのまた来年も、素晴らしい花火大会であってほしいと、神奈川の地から願っています！

栗田 翔

神明の花火に掛かる費用は、主催のふるさと夏祭り実行委員会、毎年会計報告がされています。

昨年の決算を見ると収入として町からの補助金600万円、有料座席売上げ金1517万3千円を含む、総額2783万8532円でした。

一方、支出は花火打ち上げ委託料250万円を含む、総額2440万136円で、差し引き343万8396円が残金となりましたが、これは町の一般会

大会に係る費用について

計に戻入したため、町からは実質256万1604円の支出となっています。

今年の大会は、まだ決算が済んでいませんが、町からの支出はおよそ昨年並みになると見込まれています。

これもひとえに協賛していただいた皆様のおかげと、感謝申し上げます。

※昨年の花火大会への協賛金額は、実行委員会収入としているものと、UTYで協賛金として集めた3480万7500円で運営しています。

携帯電話・PHSのリサイクルにご協力を



モバイル・リサイクルネットワーク
※携帯電話・PHSのリサイクルにご協力。
▲このマークのあるショップで回収しています。

携帯電話・PHS端末には金、銀などの貴金属、リチウム、チタンなどの希少金属が含まれており、産業用の貴重な資源として再利用することができます。

不要になった携帯電話・PHS端末は、最寄りの携帯電話・PHS会社のショップ等にお持ち下さい。メーカーを問わず無料で回収しています。

また、回収の際には、保存・蓄積されている個人情報も消去されます。

詳しくは、社団法人電気通信事業者協会のホームページ <http://www.mobile-recycle.net/> もご覧いただけます。

【問い合わせ】町生活環境課環境衛生係 ☎055（272）6092



【本館】 ☎ 055-272-8888 午前9時～午後5時（毎週木曜日は午後7時まで）
【三珠分館】 ☎ 055-272-1204 午前9時～午後5時
【六郷分館】 ☎ 0556-32-2002 [平日] 正午～午後7時 [土・日] 午前9時～午後5時
■休館日：全館とも毎週月曜日・祝日・年末年始 ※本館のみ月の最後の平日

今月のおはなし会 気軽におこし下さい！

- 本 館 — [乳幼児対象]
9/24(木) 午前11時～11時30分
- 三珠分館 — [幼児から小学生対象]
毎週(火) 午後4時30分～5時
[乳幼児対象]
9/29(火) 午前11時15分～11時45分
- 六郷分館 — [幼児から小学生対象]
9/15(火) 午後3時30分～4時

展示コーナー（本館）

『レカンフラワー&フラワーアレンジメント』展

出品者・喜納マリサさん(町内在住)

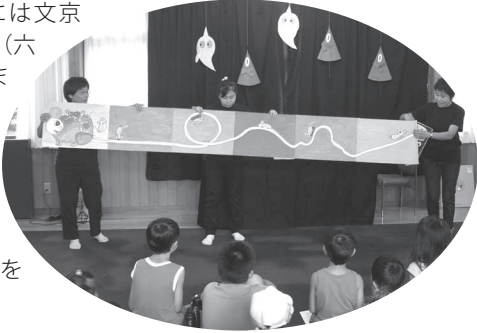
【期間】 9月1日(火)～10月29日(木)

レカンとはフランス語で「宝石箱」の意味です。自然の花や葉を立体状態で乾燥させています。額装内での特殊技術により、退色を食い止め、長く楽しむことができます。多様なアレンジにより、可憐で花の宝石箱のように楽しめます。



◀ 7月25日に三珠分館では粘土でスイーツのペーパースタンドを作りました。約80名が参加し、すてきなスイーツが出来上がりました。でも作り物だから食べちゃダメだよ。

▶ 8月11日には文京交流センター（六郷）で図書館まつりを行いました。大型えほんのよみかせや、パネルシアターで楽しい時間をすごしました。



新刊図書

■一般向け

『今日を生きる』
(大平光代・中央公論新社)



ベストセラー『だから、あなたも生きぬいて』の著者。あれから9年、その後女性初の大阪市助役に就任。2006年、40歳で再婚。そしてダウン症の娘を出産。「波乱万丈の人生で、母親になって初めて見えてきたもの、そして何が自分にとって大切なものかを知ることができた。」と著者は語る。

■幼児向け

『おつきみどろぼう』
(ねぎしれいこ・世界文化社)



きょうはじゅうごやです。じゅうごやはどこのいえでも、おつきみだんごをつくっておそなえます。このおだんごはね、だれでもこっそりってたべていいんですって。おだんごがなくなると、いいことがたくさんあるといわれているんですよ。そんなよる、おおかみのいえでは……。



始まりました ブックスタート事業

▲ブックスタートで絵本などを受け取る親子

※ブックスタート事業は今年の4月1日以降に誕生した赤ちゃん全てを対象に、絵本をプレゼント。読み聞かせなどをおとして親子があたたかく、楽しい時間を過ごすことができるように応援する運動です。

わたしの一冊

『凧としたシニア』
(榊原節子・PHP研究所)



残りの人生をどのように生きるか。寝たきりや認知症になったら治療はどうしてほしいか。誰にどこで介護してもらいたいかを、家族に伝えておくことが大切。それにはエンディングノートを書くことだとある。この本を参考に「いい人生だった」と考える人生を送りたいものである。(50代女性・三珠在住)

町立病院からのお知らせです

自己検診と医療機関での健診で早期発見

みなさん、日本の女性で最も多いがんは、乳がんだということをご存じですか？
現在、1年間におよそ4万人の乳がん患者が発見されています。割合で言うと、女性のおよ



がんは早期発見が大切 無料で乳がん健診を行っています

その20人に一人が乳がんにかかる計算になります。乳がんに対する検査や治療はここ数年で飛躍的に進歩しましたが、がんを克服するためには早期に発見することがもっとも大事であることは依然として変わりません。早期発見するためには、自分で見て触る自己検診と、医療機関で行う検診の両方を行うことが大切ですが現在の検診受診率はおよそ20%前後で決して高いとは言えません。
自己検診は、生理のある方は生理が始まった日から5～7日目に、閉経された方はいつでもよいので、月1回以上、自分で見て触って、普段と違うことがないかを見つけることがポイントです。
医療機関で行う検診は、今年度から国の方針で『女性特有のがん検診推進事業』を行うこととなり、節目の年齢の女性に子宮頸がん検診(20、25、30、35、40歳)および乳がん検診(40、45、50、55、60歳)を8月から、無料で行っています。(平成22年1月まで。予約が必要です。)

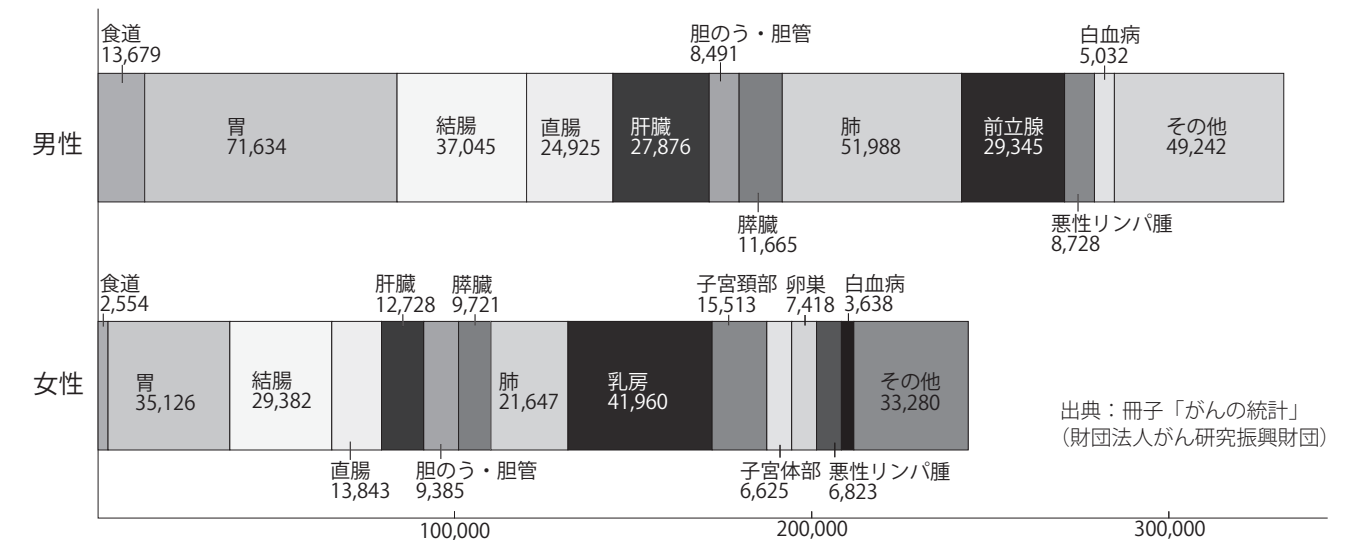
町立病院は最新の検査体制が整っています

現在の乳がん検診は、視触診とマンモグラフィ(おっぱいのレントゲン検査)が中心となっていますが、最新の器具で専門的なトレーニングを受けた医師やレントゲン技師に診てもらえることが大切です。市川三郷町立病院では、乳がん専門医(山梨県内で4人)をはじめ、トレーニングを受けた医師、レントゲン技師が乳がん検診を担当しています。

マンモグラフィの装置も新しく、また精密検査になった場合でも、近年導入されたMRI、CTが装備されており充実した検査体制が整っています。さらに今年度中には乳がん早期発見のためのエコー(エラストグラフィ)も導入される予定です。この機会にぜひ乳がん検診を受けて下さい。

詳しくは市川三郷町立病院にお問い合わせ下さい ☎ 055(272)3000

部位別がん罹患数(2002年) 罹患数：対象とする人口集団で一定の期間に新たにがんと診断された数のこと



出典：冊子「がんの統計」
(財団法人がん研究振興財団)